

8月チャプレンだより

「の」の字の哲学

思いやりを持って相手に話す方法として「の」の字の哲学というものがあります。

たとえば、自分の夫が会社から帰ってきて「ああ疲れた」と言う、すると妻が「何言ってるの、私だって疲れているわよ」とこう言いかねない。ところが、夫が「ああ、疲れた」と言った時、奥さんが「疲れたの」と言うことです。すると夫の気持ちがスーッと和らぐというのです。夫が「あーっ、今日は、暑かった」と言う、「夏は暑いのがあたりまえでしょう」ではなく、それを「暑かったの」と言って受け止めてあげる、それが大切だというのです。

その「の」というのは、人によってはオームの返事とおっしゃる方もいますが、「痛い」と言ったら「痛いの」、相手が「寂しい」と言ったら、すぐ「なぜ」と聞かないで、「寂しいの」とまず受け止めてあげる。「きのう、うれしかった」と言った時に、「あ、そう、うれしかったの」と受け止めてあげる、これは思いやりの具体的な方法ではないかと思えます。

私もよく失敗するのですが、ある方が、「先生、こんにちわ」と言って家のドアをノックして入ってきます。その時、すぐ「こんにちわ」と言って受け止めてあげればいいのに、「何のようですか」と言ってしまうことがあります。そうするとその方は、「いや、別にたいしたことではないんですけども、先生お忙しいようですから、また来ます」というので、あわてて「あ、すいません」と言ってお引きとめすることがあります。また、家を出る5分前あたりにどなたかが突然こられると「何のよう」と冷たく言葉を返すことがあるわけです。

私たちは忙しいと、つい相手への思いやりを忘れてしまうことがあります。まず相手の言葉を丁寧に返すことから始めて、思いやりのある言葉をたえず返すことができるようにしたいものです。

聖書の言葉

「愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。

愛は、神から出たものである。」 ヨハネ第一の手紙4：7

石川三育保育園チャプレン 北睦夫